

第十篇

局報

綱第五條

電信ヲ區分シテ左ノ三種トス

第一 官報 即チ同盟國ノ首長大臣陸海軍將帥公使又ハ領事ノ通信ヲ云フ

第二 局報 即チ同盟國各電信局ヨリ出セル報信ニシテ萬國電報ノ處務ニ關シ或ハ各局協議ノ上國益トナルヘキ事件ニ關スル者ヲ云フ

第三 私報

傳送ハ總テ官報ヲ先ニシ他ノ報信ヲ後ニス

綱第十一條

同盟各國ノ萬國電信局務ニ關スル音信ハ其各國ノ諸線路ヲ悉ク無稅ニテ傳送スヘシ

目第六十五條

第一節 局報ハ第十四條第一節ニ其文例ヲ揭示シタル局務本職及同條第二節ニ記載シタル局用報知ノ二種トス

第二節 局報ハ至急事件ニ限リ之ヲ用フヘ

シ(第二十三條)

第三節 局報ハ隨時ニ秘辭ヲシテ書スルヲ得ヘシ(條約書第六條)但一般ノ例規ハ佛語ヲ用フヘキモノトス(第七條第三節)

目第六十六條

第一節 凡テ局用報知ハ傳送上ニ不慮ノ事件起リテ已ムヲ得サレハ何時ニテモ局々ノ間ニ交送スヘシ就中已ニ傳送シタル電報ノ局内指示ニ不規則アルキ(第三十六條)第四節)又ハ已ニ傳送シタル一列電報ニ關

シテ校正等ヲ要スルキ(第四十一條第一節)第二節)又ハ電線ノ障礙ニ依リ郵便ヲ以テ電報ヲ他局ヘ送達シタルキ(第四十四條)又ハ電報ヲ其受信人ニ交付シ得サルキ(第四十八條)又ハ號標電報ヲ宛タル船艦廿八日內ニ入港セザリシキ(第六十三條第四節)等ノ如キ是ナリ

第二節 已ニ傳送シタル電報ニ關スル局用報知ハ成ルヘク原信ノ通行シタル線路ニ由テ之ヲ送ルヘシ且此報知ニハ原信ノ月

日名處記名等其搜索ニ便要ナル條件ヲ記載スヘシ

第三節 其中間何レノ局ニ於テモ此報知ニ答へ或ハ其請問ニ就テ處分スヘキ諸事件ノ要ヲ知悉セハ他局へ無益ノ傳送ヲ省クカ爲ニ其局ニテ之ヲ處分スヘシ

第十一篇

電話通信

目第六十七條

第一節 同盟各國ノ電信局ハ需用ノ多少ニ

應シ特線ヲ架設シ又ハ在來ノ線路ヲ用ヒテ萬國電話ノ通信ヲ組織スルヲ得

第二節 各電信局間ニ於テ特約アルモノ、外此線路ハ總テ電話中央局ニ連接セシメ其中繼ヲ以テ公眾用開設ノ電話局、私宅、商店、工場等ノ間ニ通信スルヲ得

第三節 器械ノ撰擇、事務ノ詳細ハ各電信局ニ於テ議定スヘシ而シテ各電話線ニ係ル料金ハ衆議一決ノ上之ヲ定ムヘシ

第四節 課金方並ニ通信ノ時限ハ談話五分

時間ヲ以テ單位ト定ム

第五節 電話線ヲ使用スルキハ請求ノ順序ニ從フヘシ而シテ二談話時間前又ハ其時間中他ノ請求者無キ時ニ非サレハ同通信者ハ二談話時間(各五分間)以上續テ使用スルヲ許サス

第十二篇

信紙貯藏

目第六十八條

第一節 電報ノ原書及之ニ關係スル書類ハ

其日ヨリ少クモ六ヶ月間之ヲ貯藏シ秘シテ漏レサルヤウ百方注意スヘシ

第二節 欧州外ノ方法ヲ用ヒタル電報紙類ハ貯藏期限ヲ延シ十八ヶ月間トス

目第六十九條

第一節 電報ノ原書或ハ騰寫ハ發信人受信人又ハ其委任ヲ受ケタル代人ハ其確證アラハ獨リ其人ニ限り之ヲ視セシムルヲ得ヘシ

第二節 發信人受信人又ハ其委任ヲ受ケタ

ル代人ハ原信ノ文言ニ相違ナキ電信局ノ
證印アル謄寫ヲ請求スルノ權アリ然レモ
着信局ニ於テハ其貯藏アラハ受信人ニ交
付シタル正寫ヲ與フヘシ但電報紙類貯藏
ノ期限ヲ過クレハ一切之ヲ許サス

第三節 本條ノ例ニ依リ交付スル電報ハ百
語以下ナレハ其寫毎ニ五拾先士ノ手數料
ヲ課シ百語以上復々百語ニ至ルマテハ皆
五拾先士ヲ課ス

第四節 發信人受信人又ハ其委任ヲ受ケタ

ル代人ヨリ請求スル電報ハ之ヲ搜索スル
ニ必要ナル事項ヲ詳細ニ申陳セサレハ各
電信局ニ於テハ右電報ノ原書及其寫ヲ一
覽セシメ又交付スヘカラス

第十三篇

料金還付

目第七十條

第一節 料金ヲ收納シタル電信本局ハ時宜
ニ依リ其既ニ分配シタル他ノ本局ヨリモ
之ヲ返却セシメ一併ニシテ發信人ニ還付

スルヲアリ其件左ノ如シ

a 凡テ電信取扱上ノ過失ニ依テ甚シク遅延ニ迫ヒ又ハ其名處ニ達セサル電報ノ全料

b 電報傳送ノ際誤謬ヲ生シテ其用辨ヲ欠キタルヲ判然ナル照校電報ノ全料

c 歐洲外ノ方法ヲ用フル通信ニ於テ通常電報傳送中取扱上ノ過失ニ依リテ遺漏シタル語數ノ全料但受信

人ニ於テ其遺漏ヲ察知シ目第二十
四條第一節及第二節ニ依リ之レヲ
尋問校正セシノタルキハ本節ノ規
則ヲ適用セサルモノトス

第二節

海底線不通ノ際ニ於テ發信人ハ其
電報ノ未タ經過セサル線路ニ係ル料金ノ
還付ヲ請求スルノ權アリ但時宜ニ因リ他
ノ方便ヲ以テ電報ヲ送達セシキハ其入費
ヲ差引キ還付スヘシ

第三節 前同様ノ還付ヲ爲サル不同盟國

ノ線上ヲ經過セシ電報ニハ前兩節ノ規則
ヲ用フヘカラス

第四節 本條ノ還付規則ハ唯其紛失遲延又
ハ誤謬アリタル電報ノ料金並ニ雜費(配達等
ノ諸費)
及第二十四條ニ云ヘル電報ノ料金ニ限り
之ヲ用フルモノトス故ニ右紛失遲延又ハ
誤謬アルカ爲ニ不得止往復ヲナシタル電
報又ハ之カ爲ニ不用トナリタル電報ノ料
金ハ之ヲ還付セス

目第七十一條

第一節 凡テ料金還付ノ請求ハ其電報ノ日
附ヨリ二ヶ月以内ヲ限リトシ之ヲ過クレ
ハ一切受理セサルモノトス
歐洲外ノ方法ヲ用フル電報ハ此時限ヲ延
シテ六ヶ月間トス

第二節 此請求ハ必ス左ノ證據書類ヲ添テ
發信地ノ本局ハ申立ヘシ即チ
不達ノ節ハ其着信局カ又ハ受信人ヨリ
ノ書面ヲ添ヘ
誤謬遲延ノ節ハ其受信人ノ所持スル電

報ノ原書ヲ添ヘ

若シ受信人ヨリ着信地ノ本局ヘ其請求ヲ
ナスモ妨ケナシト雖モ此際ニ於テハ該局
ニテ其聽受スヘキヤ又ハ之ヲ發信地ノ本
局ヘ通知スヘキヤ否ヲ判決スヘシ

第三節 關係ノ各本局ニ於テ其請求ノ件ヲ
至當ト認ムルキハ其發信地ノ本局ニ於テ
之ヲ還付スヘシ

第四節 發信人曩キニ其電報ヲ依托シタル
後其國ヲ去リ他國ニ住居セシキハ該國ノ

電信本局ヲ經テ右請求ヲ發信地ノ本局ヘ
申立ルヲ得ヘシ然ルトキハ時宜ニ依リ
其發信人ノ當時現在セル國ノ本局ヘ委托
シ其金額ヲ還付セシムヘシ

第五節 本局ヨリ本局ヲ經テ照會スル料金
還付ノ請求ニハ其關係アル諸書類ノ原書
正寫又ハ摘抄ヲ添ヘテ回達スヘシ而シテ此
等ノ文書若シ佛語ニ非サレハ其概畧ヲ佛
語又ハ關係ノ局々ニ於テ通曉シ得ヘキ國
語ヲ以テ副記スヘシ

第六節 左ノ苦情書ハ本局ヨリ本局へ通達
セス

a 苦情書ノ事件還付ヲ聽許スヘカラ
サルキ

b 作文國語曉解シ易キ書法名處及電
線沿路外へ送達ノ指定等公衆ヲ爲
メニ定メタル諸般ノ例規ニ從ハス
凡テ發信人ニ於テ其誤謬ヲ甘受シ
タル電報ニ關スルトキ
目第七十二條

第一節 凡テ電報不達ノ節ハ其取扱上ニ於
テ誤謬粗漏等ヨリ遂ニ受信人ニ達スル
ヲ妨害シタル線路ノ本局ニテ其料金ヲ辨
償還付スヘシ

第二節 電報ノ不達ニ關スル苦情書ヲ却下
スルキハ受信人ノ受領證或ハ着信地本局
ノ證明書ヲ以テ其電報ノ既ニ達シタル
ヲ確證スヘシ

第三節 電報遅延ノ節ハ之ヲ郵便ニテ遞送
スル時日ヨリモ後レテ漸ク其名處ニ達シ

タルキハ其料金ノ還付ヲ乞フコトヲ得ヘシ
但歐州内ノ電報ハ遅延時間四十八時(二晝
夜)歐州外ヘハ百四十四時(六晝夜)ヲ過クル
キハ此還付ヲ爲スヘシ
第四節 料金ノ還付ハ各遅延ヲ釀シタル局
々ニテ其時間ニ應シ之ヲ分賦辨償スヘシ
第五節 照校電報ニ誤謬ヲ生シタルトキハ
發信地ノ本局ヨリ其傳送ニ關涉シタル諸
本局ニ回報シ其電報ノ用辨ヲ闕クニ至ラ
シメタル誤謬ノ穿鑿ヲナスヘシ其辨償ノ

割合ハ關係局々各自ノ線上ニテ釀成シタ
ル誤謬ノ多寡ニ從ヒ之ヲ計算シ其脫語剩
語ヲ一誤謬ト爲スヘシ

第六節 一度ヒ過誤ヲ生セシ後チ數局ノ線
上チ連綿經過シタル語ハ其始メニ誤リシ
所ノ本局ヨリ之ヲ辨償スヘシ

第七節 凡テ誤謬脫語ノ過失ハ左ノ事項ニ
依テ辨償スヘシ

a 受信局ニ於テ電報語數ヲ能ク驗明
セサルヨリシテ語辭數字又ハ文字

ノ脱落剩餘アル片及照校電報ノ反復ヲ忘却シ又ハ之ヲ丁寧反復セサル片加之ナラス囂士機運轉ノ不順ヲ修整セサル片ハ送受兩局ヨリ辨償スヘシ

b 送信局ヨリ誤謬ノ校正ヲナスト雖
E 受信局ニ於テ其校正ヲ怠ル片及局内反復ヲ受了スト雖E前受ノ電報ヲ校正セサル片ハ受信局ヨリ辨償スヘシ

c 此他ノ誤謬失錯ハ總テ送信局ヨリ辨償スヘシ

第八節 一通以上ノ謄寫ヲ作シタル電報中幾通分カノ料金ヲ辨償スル片ハ其原書ト謄寫トヲ併セタル通數ヲ以テ收入全金額ヲ除算シ其尙ヲ得テ一通ニ對スル還付ノ金額ト定ム

第九節 證據トナルヘキ書類ノ紛失又ハ不足ナルヨリシテ誤謬脱語ノ過失ヲ何レノ局ニ歸スルニ由ナキ片ハ其證據ヲ有セザ

ル本局ヨリ辨償スヘシ

第十節 第七十一條第一節ニ定メタル期限内ニ料金還付ノ請求ヲ受ケ而シテ其請求書ヲ回達セシニ第六十八條書類貯藏ノ期限以内ニ其結局ノ報知ナキハ其請求書ヲ受ケタル本局ニ於テ右穿鑿ヲ遲滯セシ本局ノ爲ニ假ニ其請求ノ料金ヲ辨償スヘシ

第十一節 歐州外ノ方法ヲ用フル通信ニハ其電報經過ノ線路ニ在ル各政府ノ局又ハ

會社ニ於テ各自ノ割合ヲナシ其料金ヲ辨償スヘシ

目第七十三條

第一節 條約書第七條第八條ニ基キ電報ヲ抑遏シタル際發信人ヨリ其料金還付ヲ請求セハ之レヲ還付スヘシ而シテ其還付ハ抑遏シタル本局ノ負擔タルヘシ

第二節 右ノ本局ニ於テ條約書第八條ニ基キ電報ノ種類ヲ限リ停止スルノ告知ヲナシタル片之ヲ停止スヘキモノアラハ其電

報料還付方ハ告知ノ到達日以後ハ發信地ノ本局ニテ之ヲ負擔スヘシ

第十四篇

萬國會計

綱第十二條

同盟各國ハ互ニ其收税ノ計算ヲ爲スヘシ

目第七十四條

第一節 萬國會計ヲナスニハ〔佛〕ヲ以テ貨幣ノ本位ト定ム

第二節 凡テ國々ヨリ隣國ヘノ電報ハ其國

境ヨリ配達地ニ至ルノ料金ヲ計算シ其全額ヲ隣國ノ收入計算中ニ組込ムヘシ

第三節 海上ヨリ受領シタル號標電報ヲ傳送シ又ハ追尾電報ヲ再送スルキハ前節ト正ニ相反ス即チ號標電報ナレハ其發所ヨリ國境マテ追尾電報ナレハ其再送地ヨリ國境マテノ料金ヲ隣國ニテ我局ノ收入計算中ニ組込置ヘシ(第五十六條第六節乃至第九節並第六十二條第六節ヲ參考スヘシ)

第四節 發着料金ハ首尾兩國ト中間諸國ト

ニ於テ前以テ結約セハ唯々首尾兩局ノ間
ニテ直ニ清算スルモ妨ケナシ

第五節 料金ノ計算ハ協議一決ノ上ナレハ
電報ノ語數及雜費ノ有無ヲ問ハス其國境
上ヲ經過スル電報通數ニ依リテ計算スル
モ妨ケナシ此場合ニ於テハ隣國若クハ其
次ノ各國トノ分配ハ豫テ協議編製シタル
概算法ヲ以テ決算スヘシ(第七十六條第三
節ヲ參考スヘシ)

第六節 第八十七條ヲ實施スルトキ同盟セ

サル電線ト隣接スル同盟本局ハ他ノ同盟
本局ト右不同盟ノ線トノ間ニ於テ繼送ノ
媒介ヲ爲シタル後其會計ヲ調理スルヲテ
負擔ス

目第七十五條

第一節 寫ノ手數料又ハ線路外ヘノ送達料
ハ其寫ヲ配達シ又ハ其送達ヲナシタル國
ニ於テ收納スヘキモノトス

第二節 返信料前納及受信報知ノ爲メ收納
シタル金額ハ之レヲ清算法又ハ前條ノ第

五節ニ云ヘル概算法ヲ以テ計算シ其着信局ノ收入計算中ニ組込ミ置クヘシ然レトモ第五十一條第二節第三節第四節ニ依テ返信料ヲ還付セシキハ其金額ヲ還付シタル發信局ノ次月々計ノ時ニ差引ヘシ

第三節 返信料前納及受信報知ハ其傳送及會計上下モ總テ通常電報ト同様ノ取扱タルヘシ

第四節 歐洲内ノ方法ヲ用フル通信ニシテ稅則ヲ定メタル線路ニ由ラサルキハ既ニ

受領シタル中繼稅ハ迂回線ニ入タル場所ヨリ定則ノ中繼稅ノ比例ニ準シテ計算シ之ヲ其關係ノ局々ニ配當スヘキモノトス隣接セル國々ノ間ニ於テ迂回線路ヲ假用シテ通信スルキハ其發信局ニ於定則ノ中繼稅額ヲ變更スルヲ得但特別ノ約束アルモノハ此限ニアラス

第五節 歐洲外ノ方法ヲ用フル通信ニ於テハ何種ノ電報ニテモ凡テ其料金ヲ定メタル線路ニ由ラスシテ他路ヨリ傳送セシカ

爲メ料金ニ不足ヲ生スルトキハ其線路ヲ
變換シタル本局ニテ辨償スヘシ但此變換
ヲ生セン起因ノ有無ヲ他ノ本局へ尋問シ
若シ之レ有ラハ其六ヨリ追收スヘシ

目第七十六條

第一節 精算法ヲ以テ(或ハ時宜ニ依リテハ
第七十四條第五節ニ云ヘル概算法ヲ以テ)
各國間ニ比較分配スヘキ料金ハ關涉ノ各
國間ニ定メタル稅則ニ依リ相當ニ收納シ
タルモノヲ以テ其本額トスヘシ但誤算ニ

テ受ケタル過不足ノ金額アルトモ敢テ之
ヲ加算セズ

第二節 發信局ヨリ報知シタル語數ヲ以テ
料金收納ノ本據トス但傳送上誤謬アルカ
爲メ發信局ト中繼間ト協議一決ノ上中繼
局ニテ其語數ヲ改易セシキハ此例ニアラ
ス

第三節 概算法ヲ編製スルニハ先ツ各電報
料ト雜費トヲ區分シテ毎月其合數ヲ計算
シ置ク可シ(第七十五條ヲ參考スヘシ)而シ

テ全月中ニ其關涉スル國ノ爲メニ計算シ
タル料金ノ總額ヲ其全月中ノ通數ニテ除
算シ其商ヲ以テ示後分配スヘキ平均額ト
シ之ヲ改定スル迄ハ此額ヲ以テ概算法ノ
標準トナスヘシ但異常ノ事故アルトキヲ
除クノ外一ケ年ノ内ニ此改定ヲ爲スヘカ
ラス

目第七十七條

第一節 互相會計ノ整理ハ毎月末ニ於テス
ヘシ

第二節 過不足ノ差引計算ハ每季末ニ於テ

スヘシ

第三節 雙方差引計算ノ上一方へ收納スヘ
キ不足ハ金貨「佛」ノ現金ニテ其債主國ニ交
付スヘシ但之ニ關係スル兩電信本局ニ於
テ他ノ貨幣ヲ用フヘキ結約アルモノハ第
例ニアラス

第四節 金額ノ回送費ハ其受取ルヘキ本局
ニ於テ之ヲ辨フヘシ
目第七十八條

第一節 月々計算簿ノ交換ハ必ス其月ヨリ
三ヶ月内ニ於テスヘシ
第二節 右計算簿ノ検査ハ其到來ノ日ヨリ
六ヶ月内ニ於テスヘシ但是ハ最寛ナル日
限トス
若シ右期限内ニ彼局ヨリ正誤ノ報知ナキ
ハ我局ノ計算上ニ差違ナキモノト見做ス
ノ權アリ
右例規ハ彼局ヨリ送りタル計算ヲ我局ニ
テ検査スルニモ之ヲ用フヘシ

第三節 兩本局ノ計算簿ヲ整理シ其合計ニ
少差違アリト雖モ雙方差引計算ノ上一方
ヨリ收納スヘキ現金額ニ就テ其差違一百
分ノ一ニ超過セサレハ之ヲ改算セスシテ
可ナリ
假令已ニ改算ニ着手スト雖モ雙方照査ノ
上其差違ノ額一百分ノ一ニ超過セサルヲ
認ルトキハ中止シテ可ナリ
第四節 欧州内ノ方法ヲ用フル電報ニ關ス
ル會計上ノ要求アルトモ六ヶ月ヲ過クレ

ハ之ニ應承セズ歐州外ノ方法ヲ用フル電報ニ關スルモノハ十八ヶ月ヲ過クレハ亦之ニ同シ

第十五篇

各國特裁

綱第十七條

同盟各國ハ萬國一般ニ關係セサル事務上ノ點ニ就テハ各國各自諸般ノ約定ヲ爲スノ權ヲ有ス

目第七十九條

條約書第十七條ニ定メタル特裁施行ノ件々ハ殊ニ左ノ如シ

- 一 國々間ノ稅則制定
- 一 會計整理
- 一 地位ニ應シ並ニ時勢ニ隨テ特殊ノ機器又ハ文字ノ選用
- 一 電報切手方法ノ施行
- 一 電報ニテ郵便爲替ノ傳送
- 一 電報着處ニテ金銀ノ徵收
- 一 着處ニ於テ電報交付ノ方法

一 常務ニ妨ケナキヤウ特ニ時間及規則ヲ定メ低稅ヲ以テ新聞印行用ノ電報ヲ電送シ又ハ豫約法ニ依リ特線ヲ貸與スルノ權利

一 氣象學其他公益事件ニ關スル無料局報ノ制限

第十六篇

事務根局附交互通信

綱第十四條

細目規則中ニ云フ同盟國中各一政府下ニ置ク

萬國事務局ハ萬國電信ニ關スル諸般ノ報告ヲ集メ之ヲ整理出版シ稅則並ニ細目規則ノ改正ヲ請求スル者アラハ其書ヲ同盟各本局ニ回達シ而シテ衆議一致シタル改正ノ件々ヲ廣告シ且萬國電報ノ裨益トナルヘキ諸項ヲ臆勉熟慮シテ之ヲ執行スル等ノ任ヲ受クルモノトス此事務局ニ於テ庶務ヲ調理スル爲メ要スル費用ハ同盟各本局ヨリ支給スヘシ

目第八十條

第一節 條約書第十四條ニ定メタル事務局

ヲ稱シテ電信諸本局ノ「萬國事務局」ト云フ
第二節 瑞西聯邦ノ電信本局ヲシテ第八十
一條乃至第八十三條ニ定メタル條目ニ依
リ萬國事務局組織ノ事ニ任セシム

目第八十一條

第一節 萬國事務局ノ費用トシテ諸本局ヨ
リ集金スル全額ハ毎年佛貨七萬佛ニ超ユ
ヘカラス且萬國會議ノ入費ハ此定額ノ外
タルヘシ然レモ同盟各國衆諾ノ上ハ將來
此定額ヲ増加スルコトヲ得ヘシ

第二節 條約書第十四條ニ基キ萬國事務局
ノ事務ヲ監督スル本局ハ費用ヲ節制シ經
費ヲ豫辨シ且諸本局ヘ報告スヘキ其年度
ノ會計決算書ヲ整理スヘシ

第十三節 此費用ヲ差等分賦スル爲メニ同盟
各國ヲ六等ニ區分シ左ノ比例ニ依リテ若
干株ヲ各國ニ分賦ス

- 第一等 廿五株
- 第二等 二十株
- 第三等 十五株

第四等 十株
 第五等 五株
 第六等 三株
 第四節 右各等ノ定株ニ其等級ノ國數ヲ乘
 シ之ヲ合加セシモノヲ以テ全株數トシ此
 全株數ヲ以テ事務局費用ノ全額ヲ除シ其
 商ヲ以テ一株ノ金額トス
 第五節 事務局ノ費用ヲ分賦セシムル爲メ
 前節ニ記載シタル六等ニ因テ諸國ヲ區分
 スルト左ノ如シ

第一等	日耳曼	伯西爾	佛蘭西
大貌列顛	英領印度	以太利	露西亞
土耳其			
第二等	澳地利	西班牙	匈牙利
第三等	白耳義	蘭領印度	那威
荷蘭	羅馬尼亞	瑞典	
第四等	南濠斯太利亞	喜望峰	丁抹
埃及	日本	新南威爾斯	新西蘭
瑞西	多斯馬尼亞	維多里亞	
第五等	勃斯尼比耳日合維		勃爾牙利

交趾 希臘 葡萄牙 塞內牙爾

攝兒比亞 暹羅 突尼斯

第六等 盧森堡 蒙的尼古羅 那多兒

波斯

目第八十二條

第一節 同盟各國ノ電信本局ハ其内國電信事務上ニ關スル諸報告ヲ互ニ寄贈シ且電機上新發明ノ事アル毎ニ互ニ報知スヘシ

第二節 右等ノ諸報知ハ凡テ萬國事務局ヲ

經テ贈答スルヲ例規トス

第三節 諸本局ハ其内國並ニ萬國電信稅則ノ制定改正或ハ萬國通信ニ關スル新線ノ設置舊線ノ廢停分局ノ開立閉闔又ハ勤務時間ノ伸縮等ノ諸報告ヲ前佛郵便ヲ以テ萬國事務局ニ通達スヘシ且其本局ヨリ發布スル文案ハ寫本或ハ摺本ニシテ其發布ノ當日又ハ遅クトモ其翌月ノ月始ニハ必ス萬國事務局ヘ送付スヘシ

第四節 諸本局ハ萬國通信ニ關スル線路ノ

不通及全通ノ報告ヲ凡テ電報ヲ以テ事務局ニ通達スヘシ

第五節 諸本局ハ其通信ノ員數景況線路ノ位置分局ノ員數機器ノ種類等ヲ統計表ニ明記詳載シ毎年始月ニハ必ス到達スルヤウ之ヲ萬國事務局ニ送付スヘシ但此統計表ハ豫テ萬國事務局ヨリ回達シタル式紙ニ照準シテ之ヲ編製スヘシ

第六節 諸本局ハ其各種ノ發行書類ヲ二部ツ、萬國事信局ヘ寄贈スヘシ

第七節 諸本局ハ電信各科上ニ關シ經驗セシ事項アラハ之ヲ萬國事務局ニ報告スヘシ

目第八十三條

第一節 萬國事務局ハ稅則ヲ分部出版シ凡テ之ニ關スル事件ヲモ必ス諸本局ヘ報告スヘシ就中前條ノ第三節ニ掲載シタル件ハ勿論ナリ
諸報告ノ至急ヲ要スルモノハ萬國事務局ヨリ電報ヲ以テ之ヲ傳送スヘシ就中前條

第四節ニ掲載シタル件ハ勿論ナリ但シ税則ノ改定ニ關スル諸報告ハ其改定ノ件々ヲ直ニ此附録ノ稅表行中ニ加記スヘキ文體ヲ以テスヘシ

第二節 萬國事務局ハ總集統計表ヲ編製スヘシ

第三節 萬國事務局ハ各本局ヨリ報知スル諸書類ニ基キ佛語ヲ以テ電信新誌ヲ刊行スヘシ

第四節 萬國事務局ハ公用ノ電信地圖ノ上

梓シ旦定時毎ニ之ヲ改製スヘシ

第五節 萬國事務局ハ萬國電信ニ關スル必用ノ諸報告ヲ同盟國諸本局ヨリ依頼スル片ハ何時ニテモ之ヲ報スヘキヲ須知スヘシ

第六節 萬國事務局ニテ刊行スル諸書類ハ第八十一條ニ於テ差等分賦セシ株數ニ比例シテ同盟各國ノ諸本局ヘ之ヲ分與スヘシ若シ定數外ノ需求アル片ハ其原費ノ代價ヲ納メシムヘシ私立電信會社ヨリ之ヲ

需求スルキモ亦同シ

第七節 右定數外ノ需求ハ豫テ其員數ヲ事務局ニ通知シテ之ヲ定ムヘシ若シ其増減ヲ要スルトキハ更ニ之ヲ通知スヘシ故ニ其員數ヲ増減セント欲スルキハ印刷用意ノ爲メ數日前ニ之ヲ事務局ヘ通知スヘシ

第八節 萬國事務局ハ條約書第十條第十三條ニ云ヘル稅則及細目規則ノ改定アラントチ一局若クハ數局ヨリ請フキハ其請求書ヲ回達シ其關係アル各局ノ許諾ヲ得テ

(時宜ニ依テハ間接ニ關係アル局ノ同意ヲモ得タル後) 遲延ナク其採用セラレタル改定ノ件々ヲ告知スヘシ且稅則及規則ノ改定ハ如何ナル手續ヲ以テ之ヲ行フトモ必ス告知スヘキモノトス但規則改定ノ告知ハ少クモ二ヶ月稅則改定ノ告知ハ少クモ十五日ヲ經サレハ之ヲ實施スヘカラス若シ異論アルキハ彼此ノ協議ヲ經テ實施スヘシ

第九節 同盟各本局ノ衆諾ヲ得テ當ニ一決

スヘキ事件アリテ之ヲ回議ニ付シタル後
定期四ヶ月内ニ其答書ノ到着スルヤウ差
出サ、ル局々ハ之ニ同意シタル者ト看做
スヘシ

第十節 萬國事務局ハ電信會議用ノ諸物品
ヲ準備シ且會議前ニ其會議ノトキ補正ス
ヘキ條件其他ノ書類ヲ纂輯上梓シテ分配
スル等ノ事ヲ擔任ス

第十一節 萬國事務局ノ局長ハ會議ノ諸事
ヲ幹辦シ會議ニ參與スルヲ得ト雖モ可否

ノ數ニ人ルヲ得ス

第十二節 萬國事務局ハ其處理セシ事項ニ
ツキ年報ヲ作り之ヲ同盟各國ノ電信本局
ニ寄贈スヘシ

第十三節 萬國事務局ノ處事ニ就テハ條約
書第十五條ニ云ヘル會議ノ際議員ノ檢閲
ニ供シテ其許可ヲ得ヘシ

第十七篇

電信會議

綱第十五條

第十條ニ云フ税則及ヒ第十三條ニ云フ細目規則ハ此條約書ニ附屬シタル者ニテ條約書ト同一ノ効ヲ有シ且同時ニ施行スヘキモノトス右税則及ヒ細目規則ハ會議ノ上更改スルヲ得ヘシ其際ニ於テハ從來參與セシ各國皆之ニ會同スルヲ得ヘシ

此會議ハ定期毎ニ之ヲ開キ而シテ毎回其次會ノ期日並ニ場所ヲ定ムルモノトス

網第十六條

此會議ハ同盟各國ノ諸本局ヨリ派出スル理事

官ヲ以テ成立スヘキモノトス
會議ニ於テハ各本局ノ理事官數各アリトモ決議ノトキハ一人ヲ以テ算ス但一政府下ノ諸局ヨリシテ各此會議ニ列セント欲スルトキハ外國交際上ノ手續ヲ經テ期日前ニ其會議ヲ開クヘキ國ノ政府ヘ照會シ各別ノ理事官ヲ派出セシムルキハ此限ニアラス
右會議ニ於テ改正スル件々ト雖同盟國各政府ノ批准ヲ經タル後ニ非サレハ施行スヘカラス

目第八十四條

第一節 條約書第十五條ノ第三項ニ云ヘル
會議ノ定期ハ同盟各國中ニ於テ其進期ヲ
請フモノ十個國ニ及ヘハ此會期ヲ早クス
ルヲ得ヘシ

第十八篇

加入條約附不同盟國トノ通信

網第十八條

方今此條約ニ與ラサル國ト雖モ其請求ニ依リ
テハ之ニ加入スルコトヲ許スヘシ

右加入ハ會同ヲ開キシ國ヘ外國交際上ノ手續
ヲ經テ照會スヘシ然ルトキハ該國ヨリ其他諸
國ヘ之ヲ報知スヘキモノトス
加入セシ上ハ當然ニ此條約ニテ定メタル諸件
ヲ行ヒ且衆益ヲ共ニスヘキモノトス

網第十九條

此條約ニ加入セサル國々或ハ私立會社トノ通
信ハ此條約第十三條ニ云フ所ノ規則ニ基キ愈
進歩ノ通信方法ヲ以テ衆利ヲ圖リ之ヲ取扱フ
ヘシ

目第八十五條

第一節 條約書第十八條ニ依リ同盟ニ加入
セント欲スト雖モ同盟各國ニ準シテ其稅
則ヲ相當ニスルヲ欲セサルモノハ各國
皆此條約稅則ノ利益ヲ彼ト共ニスルヲ
拒却スヘシ

第二節 歐羅巴外ニテ所有スル數線路ヲ以
テ此條約ニ加入シタル諸本局ハ其線路ノ
歐羅巴内外孰レノ方法ニ隨フヤヲ確定陳
述スヘシ

此陳述ハ稅表中ニ錄示スルカ又ハ萬國事
務局ヲ經テ其事由ヲ報告スヘシ

目第八十六條

第一節 私立電信會社ノ同盟國ノ間ニ接ス
ル者アリテ萬國通信ヲ取扱フキハ其通信
ニ關シテハ會社ノ線ト雖モ之ヲ合セテ該
國電信ノ方法ヲ完成セルモノト看做スヘ
シ

第二節 私立電信會社ニテモ此條約並細目
規則中ノ諸條件ヲ遵守スヘキコトニ同意

シ且其營業ヲ許シタル國ヨリ其旨ヲ報告
スルキハ此條約中ノ諸利益ヲ共ニスルヲ
得ヘシ但此報告ハ條約書第十八條第二項
ニ依リテ取扱フヘシ

第三節 同盟國ノ二三ヶ國ニ跨リテ電線ヲ
架設シタル會社ハ必ス同盟ニ加入セシム
ヘシ假令ヘ之ニ加入セサルモ其架線ヲ許
セシ國ニテ特別ニ記載シタル免許狀中ノ
條件ヲ以テ同盟加入ノ旨ヲ揭示シ置クヘシ
第四條 私立電信會社ニシテ某同盟國ニ其

線路ト自己ノ海底線トヲ連接スルノ特許
ヲ乞フキハ該國認可ノ料金額ニ隨フヘキ
旨ヲ承諾スルニ非サレハ其特許ヲ得ル
能ハサルモノトス若シ此料金又ハ取扱規則
中ノ改正ヲ行ハント欲セハ白倫萬國事務
局ヨリ之ヲ報告シ目第八十三條第八節ニ
記スル期限ノ後ニ非サレハ之ヲ實行スル
ヲ得ス但右會社ハ條約ヲ締結セサル他
ノ會社ニ對シテハ其便宜ヲ計リ本節ニ準
據スルニ及ハス

第五節 前條ノ第一節ニ云ヘル拒却ノ權ハ
前節ノ私立電信會社ニモ之ヲ適用ス

目第八十七條

第一節 此條約ニ加入セサル國又ハ此條約
書中ノ欠ク可カラサル條件ヲ遵守セサル
會社ト通信ヲ開クトモ其電報ノ經過スル
線路ノ内同盟國ノ領地ニ係ル料金ハ必ス
此規則ト毫モ差違アルヘカラス

第二節 同盟國ト不同盟國ト電報ヲ交送スル
ニハ其本局ニ於テハ各自ノ地方ニ用フヘ

キ稅則ヲ定ムヘシ但同盟國ニ於テハ第十
九條及第二十條ニ基キテ之ヲ定メ不同盟
國ノ料金ヲモ併セ課スヘシ

露國聖比得堡ニ於テ確定シタル條約書第十
五條及第十六條ニ依リテ一千八百八十五年
九月十七日各國理事官日耳曼國伯林ニ於テ
此細目規則ヲ議決シ一千八百八十六年七月
一日ヨリ之ヲ施行ス

各國ヨリ此會議ニ列シタル理事官左ノ
如シ

日本	石井忠亮
日耳曼	ドクトル、フオン、ステプアン
全	ハーク
全	シエフレル
全	フリッチ
全	ル、サーシユ
南濠太利亞	チャールレス、トッド
澳大利	プルン子ル
全	ウラルシツツ
匈牙利	エル、ド、コオレル

白耳義	エフ、ドラルジユ
勃斯尼比耳日合維	パルマン
伯西爾	パロシ、ド、カパ子マ
勃爾牙利	エル、イワノフ
交趾	エル、ヂユウイウイエー
丁抹	ホンク
全	ルンド
埃及	エルチスト、アイスコッフ、フロワイエー
全	スカンダル、フアミー
西班牙	ウイ、コロミナ

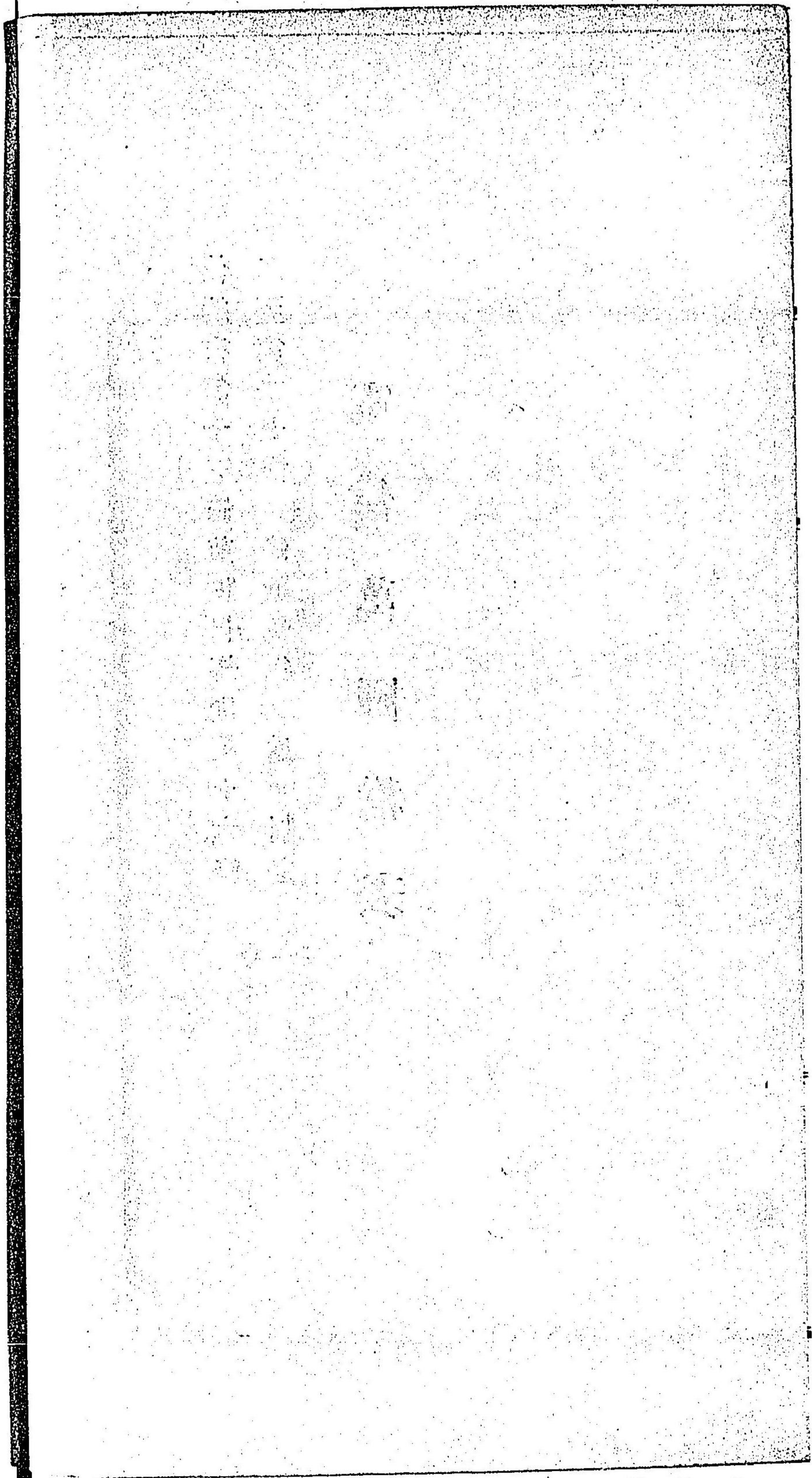
佛蘭西	フリブール
全	エ、ロラン
大貌利頓	シ、エッチ、ビ、ベチー
全	エッチ、ジ、フイシエル
全	ビー、ベントン
希臘	エム、ア、ヂュリエツチ
英領印度	バトマン、シヤンペイン
全	シ、エツナ、リーイルツ
以太利	ダミコー
盧森堡	モンジュナ

蒙的尼古羅	ブルン子ル
全	ウオルシツツ
那威	シ、ニイルセン
全	エフ、ブツジエ
新南威爾斯	イー、シー、クラク子ル
荷蘭及蘭領印度	ホフステット
葡萄牙	ギルヘルミノ、アウグスト、ド、パロス
羅馬尼全	コロ子ル、パスナア
全	ジ、シヤコウエスコ
露西亞	エン、ド、ベサツク

全	エ、ウツソーフ
塞内牙爾	エル、ジュウイウイエー
攝兒比亞	サン、ヨワノウイツク
暹羅	ギリスダン
瑞典	デ、ノルドランドル
全	ヘルマン、ウツデンベルク
瑞西	フレイ
多斯馬尼亞	ゼ、ヘンニッケル、ヒートン
突尼斯	エ、ロラン
土耳其	オハン、バグダリヤン

條約書第十五條並細目規則第十六條
 乃至第二十條ノ條款執行ノ爲メ制定

電 信 萬 國 稅 表



A 號

歐羅巴內方法稅表

從	至					
日耳曼	二〇	一六	二四	二八	一七	澳地利匈牙利 一
澳地利匈牙利	二四	一六	二九	二八	一七	日耳曼 二
白耳義	二九	一六	三三	二八	一七	勃斯尼比耳日合維 三
勃斯尼比耳日合維	二九	一六	三三	二八	一七	勃爾牙利 四
勃爾牙利	一七	三三	二〇	二八	一七	丹 麥 五
加那里	一九〇	一八六	一七四	一七八	一七	丹 麥 六
丁 林	一八六	三三	二九	二四	一六	西 班 牙 七
西班牙	三六	一五〇	四〇	三二	二八	葡 萄 牙 八
佛蘭西	二〇	二八	一七〇	二八	二四	瑞 士 九
亞耳日里	—	三二	四〇	二八	三六	瑞 士 九
日巴拉太	三四	二四	一六	四一	二九	日 巴 拉 太 十
大貌列頭	五五	四三	三一	四五	四一	大 貌 列 頭 十 一
希臘	七二	六六	六三	五三	三七	希 臘 十 二
ノリヒラント	六一	四四	四一	二九	三七	ノリヒラント 十 三
希臘諸島	六五	一〇	七六	六九	六七	希 臘 諸 島 十 四

附言

第一本表ノ地名ハABCノ順序ヲ以テ之レヲ記載ス而シテ各欄内ニ示シタル稅額ハ其各地ノ通信ニ適川ス可キモノニシテ本表中ノ屬地ヲ有スル本國ノ料金ニハ屬地ノ料金ヲ含入セサルモノトス

第二土耳其ト其隣國間トノ稅額ハ未タ決定セス依テ其國々トノ特約ヲ締結スル迄ハ倫敦制定規則ノ稅額ニ從フヘシ

第三本表ハ各國ノ中特約ヲ締結シタルモノニハ關涉セサルモノトス

細目規則第十九條第二節執行ノ爲メ各國間
ノ一語稅(佛貨先士ヲ以テ計算ス)ヲ決定ス

大貌列領	十一	三三	四三	二七	四七	五一	一九五	四〇	四五	三一	四三	五五	大貌列領	十一
希臘	十二	五二	四四	五七	三七	三七	二二	五七	六一	五三	六三	六六	希臘	十二
クリコラント	十三	二一	二九	二五	三三	三七	一八七	二五	三九	二九	四一	四四	クリコラント	十三
希臘諸島	十四	五六	四八	六〇	四〇	四〇	二二五	六〇	六五	五七	六三	六六	希臘諸島	十四
マンシユ諸島	十五	三三	三七	二九	四一	四五	一八三	四一	三三	二五	三七	三七	マンシユ諸島	十五
以 太 利	十六	二四	二〇	二四	二四	二八	一八四	二八	三三	二〇	三〇	三三	以 太 利	十六
盧 森 堡	十七	一六	二四	二九	三三	三三	一七四	二一	二四	二〇	二八	二九	盧 森 堡	十七
馬 留 多	十八	四四	四〇	四五	四五	四九	一九八	四九	四〇	三二	三二	三三	馬 留 多	十八
聖的尼古羅	十九	二四	一六	二九	二一	二五	一八六	二九	三六	二八	四一	四二	聖的尼古羅	十九
那 威	二十	二八	三六	三二	四〇	四四	一九八	二二	四八	四〇	五二	五二	那 威	二十
荷 蘭	二十一	一六	二四	一三	二九	三三	一七八	二一	二八	二〇	三三	三三	荷 蘭	二十一
葡 萄 牙	二十二	三二	三六	二九	四一	四五	一六六	四一	一六	二四	三六	四五	葡 萄 牙	二十二
羅馬尼亞	二十三	二四	一六	二九	一七	二九	一八六	二九	三六	二八	四一	四二	羅馬尼亞	二十三
露 西 亞	二十四	四〇	四〇	四四	四四	四四	二二	四八	六〇	六〇	六三	六三	露 西 亞	二十四
塞 內 牙 爾	二十五	三二	三〇	三二	三二	三二	一六〇	三三	三三	三三	三三	三三	塞 內 牙 爾	二十五
瑞 典	二十六	二四	一六	二九	一三	二九	一八六	二九	三六	二八	四一	四二	瑞 典	二十六
瑞 西	二十七	二〇	二八	三〇	三二	三二	一六〇	三三	三三	三三	三三	三三	瑞 西	二十七
土 里 波 里	二十八	一六	一六	二一	二一	二一	一七四	二一	二四	一六	二九	二九	土 里 波 里	二十八
士 里 波 里	二十九	一八	一五	一五	一五	一五	二七八	一三	一三	一三	一三	一三	士 里 波 里	二十九
突 尼 斯	三十	三二	三六	二八	四〇	四〇	一八二	四〇	四〇	二八	三六	三六	突 尼 斯	三十
十 丹 共	三十一	五二	五六	五二	五二	五二	二二	五二	五二	五二	五二	五二	十 丹 共	三十一

B號 歐羅巴外方法稅表

細目規則第二十條執行ノ
爲メ各國間中繼及首尾ノ
一語稅ヲ決定ス

國名	通信種類	佛ラシヤ以テ 計シタル 首尾稅	佛ラシヤ以テ 計シタル 中繼稅	記事
日耳曼	第一 方ニ於テハ大貌列顛及ヒ白耳 義、盧森堡、ト他方ニ於テハ亞 丁、南亞弗利加、及ヒ埃及トノ 間ニ往復スル通信、 第二他ノ諸通信、	〇、二二五	〇、一五〇 〇、二二五	
匈 牙 地 利	諸通信、 首尾稅ノ部 中繼稅ノ部 第一 トリエストニ海底線ヲ經テ一 底線陸揚場澳地利國諸境界 間ノ線ヲ經過シテ一方ニ於 テハ亞丁、南亞弗利加及ヒ埃 及ト他方ニ於テハ左ノ諸國ト 往復スル通信	〇、二二五		

匈澳
牙地利利

第一 歷山得港間ノ線路ヲ經テ左ノ國々ト往復スル通信	第二他ノ諸通信	(A) 亞耳日里、突尼斯、日耳曼、白耳義、勃爾牙利、丁林、西班牙、佛蘭西、日巴拉太、大貌列頓、ヘリゴラント、福盧森堡、那威、荷蘭、葡萄牙、瑞典及ヒ瑞西、 (b) 勃斯尼、比耳日合維、孟的尼、古羅及ヒ攝兒比亞、 (c) 羅馬尼、
東方會社ノ部		
〇、二七五	〇、二二五	〇、一〇〇 〇、一七五

トリエスト「海底線」ヲ經テ一方ニ於テハ大貌列頓他方ニ於テハ印度及ヒ往復スル通信ニハ上載ノ稅ヲ減シテ七先士五ト爲ス但シ此減稅ハ歐羅巴印度間ノ一定一語稅五佛ニ關係アラサルモノトス

匈澳
牙地利利

第三 奧地利「トリエスト」港、希臘諸國ト希臘及ヒ土耳其ト往復スル通信	第二 澳地利「トリエスト」港、亞丁間ノ線路ヲ經テ左ノ國々ト往復スル通信	(A) 日耳曼、澳地利、匈牙利、白耳義、勃斯尼、比耳日合維、丁林、ヘリゴラント、福盧森堡、孟的尼、古羅、那威、荷蘭、羅馬尼、歐羅巴、露西亞、甲加索、露西亞、攝兒比亞及ヒ瑞典、 (B) 亞耳日里、突尼斯、西班牙、佛蘭西、日巴拉太、及ヒ葡萄牙、大貌列頓及瑞西、 (C) 勃爾牙利、 (D) 勃爾牙利、	(A) 大貌列頓及ヒ瑞西、 (B) 亞耳日里、突尼斯、西班牙、佛蘭西、日巴拉太、及ヒ葡萄牙、 (C) 勃爾牙利、 (D) 他ノ諸國、
〇、二七五	〇、二七五	〇、四五〇 一、三〇〇 一、三〇〇 一、三七五 一、四〇〇	三、九七五 三、九〇〇 三、九〇〇 四、〇〇〇 四、〇五〇

希臘、土耳其ノ中繼稅ヲ含入ス
希臘、土耳其及ヒ埃及ノ中繼稅ヲ含入ス
希臘ノ首尾稅又ハ中繼稅ヲ含入ス

白耳義	諸通信、	〇、〇七五	〇、〇七五	
勃斯尼比 耳日合維	諸通信、	〇、〇七五	〇、〇七五	
伯西爾	首尾稅ノ部 第一「レシフエ」ヘルナンブコ「ヲ發シ」 (A) 北部並ニ中央部ノ諸局へハ、 (B) 南部ノ諸局へハ、 第二「メレム」(バラ)發シ (A) 北部ノ諸局へハ、 (B) 中央部ノ諸局へハ、 (C) 南部ノ諸局へハ、 中繼稅ノ部 「シヤガラオ」或ハ「ウルグヤナ」ト (A) 南部境界ノ一局ノ間、 (B) 中央部境界ノ一局ノ間、 (C) 北部境界ノ一局ノ間、	一、〇〇〇 二、〇〇〇 一、〇〇〇 二、〇〇〇 一、〇〇〇 二、〇〇〇 三、〇〇〇	一、〇〇〇 二、〇〇〇 三、〇〇〇	

勃爾牙利	諸通信、	〇、〇七五	〇、〇七五	
喜望峰	諸通信、	〇、二〇〇	〇、二〇〇	「チユルバン」海底線ヲ經テ往復スル通信ナレハ此首尾稅ヲ那多留ト分收ス
丁抹	第一「官設線路」ノミチ使用スル通信、 第二「官線」ニ依ル可キ通信但大貌列ノ後段大貌列ノ部ニ就テ見ルヘシ	〇、〇七五 〇、二二五	〇、〇七五 〇、二二五	
埃及	首尾稅ノ部 埃及中左ノ各部ト往復スルト諸通信 第一部、 第二部、 第三部、 中繼稅ノ部	〇、二五〇 〇、五〇〇 〇、七五〇	〇、二五〇 〇、五〇〇 〇、七五〇	

埃及

第一第一地區域中、	〇、二五〇		
第二「スマッキン」ト他ノ境界トノ間、	〇、七五〇		
東方電信會社ノ稅			
<p>附言 左ニ記載スル首尾稅ハ亞歷山得ノ首尾稅ナリ埃及中他ノ各分局ヘノ通信ニハ中繼稅ト上載ノ埃及首尾稅ニ拾五先士ヲ課ス而シテ亞歷山得改羅蘇士トノ通信ヲ課スル右ノ首尾稅ニ拾五先士ハ會社ノ有ニ歸ス</p>			
第一埃及ノ海岸亞歷山得ト一馬留多嶋トノ間	一、三〇〇		
(A) 馬留多島ト往復スル通信、	一、〇〇〇		
(B) 他ノ諸通信、	一、〇〇〇		
二「オトラント」トノ間、	一、二二五	一、二二五	東方會社ノ所得ニ歸ス可キ馬留多嶋ノ首尾稅ヲ合入ス
			土耳其「カンチ」ノ首尾稅並ニ希臘中繼稅ヲ合入ス

埃及

三希臘トノ間、	一、二二五	一、二二五	土耳其「カンチ」ノ首尾稅ニ希臘中繼稅又ハ首尾稅ヲ合入ス
四「カンチ」トノ間、	〇、八〇〇	〇、八〇〇	「カンチ」ノ中繼稅ヲ合入ス但シ土耳其ノ電報ニハ此中繼稅ヲ課セス
五「ロチド」トノ間、	一、〇五〇	一、〇五〇	
第二埃及ノ海岸ト「シーアル」トノ間	〇、九〇〇	〇、九〇〇	
第三「亞歷山得線路ヲ經テ馬留多ト「ロラド」トノ間、	一、五五〇	一、二五〇	
第四「スアッキン」埃及間			
(A) 埃及若クハ「シーアル」嶋ノ通信、	一、三五〇		亞歷山得改羅蘇士、伯爾多濟度ヲ除キ埃及政府トノ共有稅額

埃及

(B) 亞歷山得線ヲ經テ他ノ諸國 ヘ送ル通信、	一、一〇〇	一、一〇〇	會社ニ屬スル埃及 中繼稅ヲ含入ス而 シテ亞歷山得線 坦丁堡間ノ線路 ヒ亞歷山得線路 リヤ間ノ線路ニ依 リ一方ニ於テハ ツシヤ並ニイエメ ン他方ニ於テハ 耳其(亞弗利加)ノ 里波里ヲ合入ス ノ間ニ往復スル 信ニハ此稅ヲ減シ テ甲乙線ハ七拾 先士五ト爲ス
(C) エラリツク一若クハ新設ス ヘキ他ノ線路ヲ經テ他ノ諸 國ヘ送ル通信、	一、六〇〇	一、六〇〇	會社ノミニ收入ス ル稅ナリ而シテ 方ニ於テハヘツ ヤ並ニイエメ ト其他方ニ於テ 耳其(亞弗利加)ノ 里波里ヲ合入ス ニハ此稅ヲ減シ ハ此稅ヲ減シテ 佛ト爲ス

西班牙

諸通信、	〇、一八七五	〇、一八七五	大不列顛ヲ發スル 通信又ハ伯西爾 海線ヲ經テ大不 列顛ニ於テ中繼 列通信ニシテヒ ル通信ニ依ルモ シハ此中繼稅ヲ 爲ス
「カヂツクス」加那里嶋間ノ海底線 中繼稅、	一、五〇〇	一、五〇〇	
西班牙直通電信 會社ノ稅	〇、三〇〇	〇、三〇〇	
「バルスローヌ」馬耳塞間ノ海底線、	〇、二二五	〇、二二五	
諸通信、	〇、二二五	〇、二二五	
馬耳塞、亞日里間 海底線ノ中繼稅	〇、二二五	〇、二二五	
諸通信、	〇、二二五	〇、二二五	
佛蘭西 (亞日里突尼斯) 諸通信、	〇、二二五	〇、二二五	

五

佛蘭西	諸通信、 東方電信會社ノ稅	〇、二二五	〇、二二五	
佛蘭西 (交趾)	首尾稅ノ部 一 「ヌウオイ」線ヲ經テ印度並ニ 印度以外ノ諸國ト往復スル通 信、 二 暹羅ト往復スル通信、 三 海底線ヲ經テ往復スル通信、 中繼稅ノ部 一 「ヌウオイ」線ニ依リ印度並ニ 印度以外ノ諸國ト往復スル通 信、 二 暹羅ト往復スル通信、	〇、五〇〇 〇、三五〇 〇、一五〇	〇、五〇〇 〇、三五〇	
佛蘭西 (塞内牙爾)	加那里、塞内牙爾間海底線ノ中繼 稅、		一、五〇〇	塞内牙爾首尾稅ヲ 含入ス

佛蘭西 (塞内牙爾)	加那里、塞内牙爾間ノ海底線ニ依テ サル諸通信ニ課スル塞内牙爾ノ首 尾稅、	〇、二二五		
大貌列顛 及ヒ 愛蘭士	左ノ各線路ニ依リテ往復スル諸通 信 一 日耳曼、 二 白耳義、 三 丁林、 四 西班牙、 五 佛蘭西、	〇、三〇〇 〇、二二五 〇、三〇〇 〇、五六二五 〇、二二〇	中繼稅ハ 大貌列顛 ヲ發シ又 ハ大貌列 顛ニ着ス ル電報ノ 經過ス可 キ國々ノ 首尾稅ヲ	「ピルバオ」線路ニ依 リ伯西爾海底線ヲ 經テ往復スル通信 ニハ此稅ヲ減シテ 四拾四先士ト爲ス
	六 日巴拉太、 七 馬留多、	〇、九〇〇 〇、九〇〇	日巴拉太ノ首尾稅 中ニハ東方電信會 社ニ屬ス可キ分ヲ モ含入ス 馬留多ノ首尾稅中 ニハ東方電信會社 ニ屬ス可キ分ヲモ 含入ス	

大貌列顛
及愛蘭士

八 那威、	〇、二六二五	加算シテ	西班牙ノ通信ニハ此稅ヲ減シテ四拾八先士七五ト爲ス 附言 以上第一ヨリ第十二至ルマテ舉示セル稅ハ海底線會社ニ分ツヘキ稅ヲモ含入ス 日巴拉太ノ稅 西班牙線路ヲ假用スル諸通信、 「ヘリゴランド」電信會社ノ稅 諸通西、 東方電信會社ノ稅 第一日巴拉太 (A) 「カルカウエロス」トノ間、 (B) 「ウイゴ」トノ間、 (C) 馬留多トノ間、 第二馬留多ト
九 荷蘭、	〇、三〇〇	得ヘキモ	
十 葡萄牙、	〇、六〇〇	ノトス	
西班牙線路ヲ假用スル諸通信、	〇、〇七五	〇、〇七五	
「ヘリゴランド」電信會社ノ稅	〇、二〇〇		
諸通西、	〇、二〇〇		
東方電信會社ノ稅	〇、二二五	〇、二二五	
第一日巴拉太	〇、二二五	〇、二二五	
(A) 「カルカウエロス」トノ間、	〇、五〇〇	〇、五〇〇	
(B) 「ウイゴ」トノ間、	〇、五〇〇	〇、五〇〇	

大貌列顛
(英領印度)

甲 波斯灣海 底線ノ稅	佛テチ	陸線ニ依海底線ニ	此西班牙トノ通信ニハ此中總稅ヲ減シテ六拾二先士五ト爲ス 此四拾五先士ノ稅額ハ「ファオ」ト「ビュシール」間ノ中繼稅トシテ他ノ諸通信ニモ適用ス
第一 「ファオ」ト「ビュシール」間、	〇、四五〇	佛ヲ以テ定メタル中繼稅	
第二 「ファオ」ト他ノ波斯灣各局トノ間、	〇、二一〇	陸線ニ依海底線ニ	
第三 「ビュシール」ト他ノ波斯灣各局トノ間、	一、六五〇	陸線ニ依海底線ニ	
佛テチ	〇、七〇〇	陸線ニ依海底線ニ	
(A) 「カルカウエロス」トノ間、	〇、七〇〇	陸線ニ依海底線ニ	
(B) 「ウイゴ」トノ間、	〇、七〇〇	陸線ニ依海底線ニ	
(C) 馬耳塞トノ間、	〇、四五〇	陸線ニ依海底線ニ	
(D) 「ボースト」トノ間、	〇、二二五	陸線ニ依海底線ニ	
佛テチ	〇、七〇〇	陸線ニ依海底線ニ	

大貌列顛
(英領印度)

乙 印度ノ稅

首尾稅ノ部

第一 孟買若クハ「クラチー」ノ境界ヲ發シ

一 同盟各局或ハ同盟ニ加入セザルモ細目規則ヲ遵奉スル諸局ト印度トノ間ニ往復スル通信

(A) 「チッタゴン」以西、
(B) 「チッタゴン」以東及ヒ西倫
嶋、
(C) 緬甸、

二 一方ニ於テハ同盟ノ諸局或ハ細目規則ヲモ遵奉セサル諸局ト他方ニ於テハ印度トノ間ニ往復スル通信

(A) 「チッタゴン」以西、
(B) 「チッタゴン」以東及ヒ西倫嶋、
(C) 緬甸、

佛ヲ以テ定メタル首尾稅

佛ヲ以テ定メタル中繼稅

〇、五七五

〇、八二五

一、〇二五

一、〇〇〇

一、二五〇

一、四五〇

緬甸トノ共有稅額ナリ

緬甸トノ共有稅額ナリ

大貌列顛
(英領印度)

第二 馬搭刺ノ境界ヲ發シ印度ヘノ諸通信

(A) 「チッタゴン」以西、
(B) 「チッタゴン」以東及ヒ西倫嶋、
(C) 緬甸、

第三 「ラングン」ノ境界若クハ暹羅(タウオイ)ノ境界ヲ發シ印度ヘノ諸通信

(A) 「チッタゴン」以東、
(F) 「チッタゴン」以西

(C) 西倫嶋、
(D) 緬甸、

第四 「マドラス」ペナン「ラグン」線ヲ經テ孟買及「クラチー」ノ境界ヲ發シ印度ヘノ諸通信

(A) 「チッタゴン」以東、
(B) 緬甸、

〇、八〇〇

一、〇五〇

一、二五〇

〇、八〇〇

一、〇五〇

一、三〇〇

一、〇〇〇

一、三五〇

一、五五〇

緬甸トノ共有稅額ナリ

緬甸トノ共有稅額ナリ

緬甸トノ共有稅額ナリ

大貌列顛
(英領印度)

各境界間ノ諸通信、

中繼税ノ部
東方電信會社ノ税

第一亞丁ト

- (A) 「スアッキン」トノ間、
- (B) 埃及トノ間
- 一 埃及ノ通信、
- 二 他日開設スヘキ新線路ヲ經テ他ノ諸國ヘノ通信、

一、九〇〇
一、九〇〇
三、二五〇
三、五〇〇

〇、七五〇

馬搭刺ペナソニラ
ングンノ海底線
チノ電報ニ
ハ之レニ東方加
ハ會社ノ税ヲ加
フヘシ

附言 以上ニ記載
シタル税額
中緬甸ヘ收入ス
ヘキ分ハ二十先
士ナリ

亞歷山得改羅蘇士
ヘノ通信ハ除キ埃
及政府ノ税ヲ含入ス
會社收入ノ税ノミ

大貌列顛
(英領印度)

- (C) 「カンギー」
- (D) 「ロナト」
- (E) 希臘、
- (F) 「オトラント」
- (G) 馬留多
- 一 馬留多ト往復スル通信、
- 二 他ノ通信、

三、五〇〇
三、七五〇
三、八二五
三、八二五
三、九〇〇
三、六〇〇

九

埃及ノ中繼税ヲ含入
ス

埃及並ニ「カンギー」
ノ中繼税ヲ含入ス
但右ハ土耳其ノ通
信ニハ無税ナリ

埃及ノ中繼税、土耳
其「カンギー」ノ中繼
税並ニ希臘中繼税
ヲモ含入ス

埃及中繼税ヲ含入ス

大貌列顛
(英領印度)

第二 印度ノ海岸ト左ノ地		佛ヲ以テ定メタル中繼稅
(A) 亞丁、	二、八五〇	陸線ニ依海底線ニ
(B) 「スアッキン」、	三、〇〇〇	リテ印度依リテ印
(C) 埃及	三、〇〇〇	度及ヒ印
一 埃及トノ通信、	三、七五〇	度以外へ
二 埃及ノ中繼ヲ經テ	三、七五〇	ノ通信
アルク線又ハ將	四、〇〇〇	
來建設スヘキ新	四、〇〇〇	
線路、	四、〇〇〇	
三 「ロドス」へ往復ス	四、四二五	
ル通信、	三、五〇〇	

埃及並ニ「カンチー」中繼稅ヲ含入ス但土耳其ノ通信ニハ無稅ナリ

希臘

第一 歐羅巴大陸線ノミヲ使用スル諸通信、	〇、〇七五	佛ヲ以テ定メタル首尾稅
第二 希臘海底線ヲ使用スル通信並ニ多鳴海諸島ノ諸通信但希臘ノ稅ヲ含入ス、	〇、二七五	佛ヲ以テ定メタル中繼稅
第一 一方ニ於テハ「ワロナ」ト他方ニ於テハ「オトラント」ト「ゴルフト」ト「サント」ト海底線陸揚地ト間又ハ此ニ海底線陸揚地ノ間	〇、〇七五	
第二 他ノ諸通信、	〇、二七五	
東方電信會社ノ稅	〇、二二五	
モザカ馬留多間、	〇、二二五	

以太利

十

日本	諸通信、 歐羅巴及埃及以西トノ諸通信、 亞細亞(亞細亞露西亞及土耳其ヲ除ク)トノ諸通信、 日本朝鮮間海底線ノ稅 日本九州海岸ヨリ嚴原(對洲)及釜山(朝鮮)、	一、〇〇〇	八、八五〇	此稅卒ハ釜山(朝鮮)電信分局ニ適用ス
盧森堡	諸通信、	〇、〇五〇	〇、〇五〇	
孟的尼古羅	諸通信、	〇、〇七五	〇、〇七五	
那多留	諸通信、	〇、二〇〇	〇、二〇〇	喜望峯殖民地ト往復スル通信ニハ此中稅ヲ含入ス 東南亞弗利加會社及ヒ東方會社ノ海底線ニ依リテ復スル通信ニハ別ニ首尾稅ヲ徵收スルコト

那威	諸通信、	〇、一二五	〇、一二五	
荷蘭	諸通信、	〇、〇七五	〇、〇七五	
荷蘭(蘭領印度)	諸通信、	〇、一五〇	〇、一五〇	
波斯	首尾稅ノ部 第一 印度及ヒ印度以東ト往復スル通信、 第二 他ノ諸通信、 中繼稅ノ部 第一 露西亞並ニ土耳其ノ各境界間、 第二 他ノ境界間	一、五五〇 〇、六〇〇	一、〇〇〇 〇、九四〇 〇、七〇五	

葡萄牙

第一	伯西爾海峽ニ依リ葡萄牙ノ州郡即チ屬地ニ非サル地ヘ葡萄牙ト往復スル通信、	〇、一五〇		
第二	東方電信會社ノ海底線ト伯西爾海峽トノ間互ニ往復スル通信、	〇、〇七五	〇、〇七五	伯西爾海峽ニ依ルヘキ大列ノ通信ニハキ中繼ノ線ヲ限リ此中經ル時ニ限リ先
第三	諸通信、	〇、〇七五	〇、一二五	士ト爲ス
左ノ諸嶋ニ係ル特別稅				
(A)	「マデール」、	〇、〇七五		
(B)	「セント、ウインセント」、	〇、〇七五	〇、一二五	此稅ヲ伯西爾海峽線ノ稅ニ加フヘシ
東方會社ノ稅				
	「カルカウエロス」「ウイゴ」間、	〇、三〇〇	〇、三〇〇	

羅馬尼

諸通信、		〇、〇七五	〇、〇七五	
首尾稅ノ部				
第一	歐羅巴ノ境界ヲ發シ左ノ各地ト往復スル通信	〇、三七五		
(A)	歐羅巴露西亞、	〇、三七五		
(B)	甲加索露西亞、	〇、六七五		
(C)	「ウエルクン、ウーヂンスク」子午線以西ニ於ケル露西亞、	一、五〇〇		
(D)	「ウエルクン、ウーヂンスク」子午線以東ニ於ケル露西亞、	二、六二五		
第二	波斯或ハ亞細亞土耳其ノ境界ヲ發シ一方ニ於テハ印度及ヒ印度以外ノ國ト他方ニ於テハ左ノ國々ト往復スル通信			
(A)	歐羅巴露西亞並ニ甲加索露西亞トモ、	一、五三〇		
(B)	亞細亞露西亞(第一第二兩部)、	二、五三〇		

露西亞	
第三	右ノ境界ヲ發シ左ノ各地ト往復スル他ノ通信
(A)	甲加索露西亞、、、、
(B)	歐羅巴露西亞、、、、
(C)	亞細亞露西亞(第一部)、
(D)	亞細亞露西亞(第二部)、
第四	烏拉日阿斯德ヲ發シ左ノ地方ヘノ通信
(A)	亞細亞露西亞(第一部)第二部、、、、
(B)	歐羅巴露西亞及ヒ甲加索露西亞、、、、
中繼稅ノ部	
第一	歐羅巴境界間ノ諸通信、、、、
第二	一方ニ於テハ歐羅巴ノ境界ト他方ニ於テハ波斯及ヒ亞細亞土其ノ境界トノ間ノ線ヲ經テ左ノ諸國ヘ往復スル通信
(A)	陸線ニ依リ印度及ヒ印度以外ノ諸國、、、、

露西亞	
第三	海底線ニ依リテ印度以外ノ諸國、、、、
(B)	他ノ諸通信ニシテ前記ト同一ノ境界間ヲ經ルモノ、、、、
第四	印度及印度以外ノ諸國ヘ往復スル通信ニシテ亞細亞土其ノ境界及ヒ波斯ノ境界間ヲ經ルモノ、、、、
第五	他ノ諸通信ニシテ前記ト同一ノ境界間ヲ經ルモノ、、、、
第六	他ノ諸境界ト烏拉日阿斯德トノ間、、、、
第七	他ノ諸境界ト「ボクハラ」トノ間
黑海電信會社ノ稅	
第一	露西亞、埃及間往復ノ通信、
第二	他ノ諸通信、、、、
諸通信	、、、

十三

	暹羅	首尾稅ノ稅部	(A) (印度ノ境界「マウオイ」ヲ發スル通信、、、、) (B) 交趾ノ境界(東蒲塞)ヲ發スル通信	〇、五七五 〇、四〇〇			
	瑞 典	中繼稅ノ部	諸通信、、、、		〇、五七五		
		諸通信、、、、		〇、一八七五	〇、一五〇		
瑞 西	諸通信、、、、		〇、〇七五	〇、〇七五			
		首尾稅ノ部	第一歐羅巴ノ境界ヲ發シ (A) 歐羅巴土耳其ヘノ通信、 (B) (亞細亞土耳其及ヒ亞細亞土耳其ノ多嶋海ヘノ通信、)	〇、二五〇 〇、七五〇			
							「キオ」レンニス及ヒ「テアドス」ニハ拾七先士「カンヂ」ニハ三拾五先士ナニハ三拾五先士ナル東方電信會社ノ稅ヲモ此ニ含入ス

	土耳其	首尾稅ノ稅部	第二亞細亞土耳其ノ境界ヲ發シ (A) 亞細亞土耳其ヘノ通信、 (B) (歐羅巴土耳其及ヒ亞細亞土耳其ノ多嶋海ヘノ通信、)	〇、七五〇 一、〇〇〇			
	土耳其波里ノ稅	土耳其波里ノ海岸ヲ發シ			〇、一五〇		
		土耳其波里ノ局ヘ宛タル通信、 他ノ各局ヘ宛タル通信、 「ヘツヂヤ」及「イエメン」ノ稅		〇、三〇〇	〇、三〇〇		
							「キオ」レンニス及ヒ「テアドス」ニハ拾七先士「カンヂ」ニハ三拾五先士ナル東方電信會社ノ稅ヲモ此ニ含入ス 但「ヘツヂヤ」及「イエメン」ノ稅ハ「ス」ノ境界ニ依ルモノニハ會社ノ稅ニ減ス ト往復スル通信ニシテ「キオ」テアドスノ境界ニ依ルモノニハ會社ノ稅ニ減ス 土耳其ノ通信ニハ此稅ヲ課セズ

土耳其

「スアッキン」ノ海岸ヲ發スル通信 「スアッキン」ヨリ「ヂセッタ」ニ至ル 海底線ニ分配ス可キ稅ヲ含入ス	一、〇〇〇		蘇士「スアッキン」ノ間 ノ海底線ヲ經ル 耳其ノ通信(亞弗利 加ノ土里波里)ニ含 入ス)ニハ此稅ヲ減 シテ五拾先士ト爲 ス
(A) 土耳其ヘノ通信(亞弗利加ノ土 里波里ヲ含入ス)、	一、〇〇〇		
(B) 他ノ諸信通、	一、五〇〇		
中繼稅ノ部			
第一 歐羅巴ノ境界間、		〇、二五〇	
第二 亞細亞土耳其ノ境界間、		〇、七五〇	
第三 歐羅巴土耳其ノ境界ト亞細 亞土耳其ノ境界トノ間、		一、五二五	
(A) 陸線ニ依リ印度及ヒ印度以 外諸國ヘノ通信、		一、〇三五	
(B) 海底線ニ依リ印度並ニ印度 以外諸國ヘノ通信、		〇、七〇〇	
(C) 「ハネキン」又ハ「ハツカレ」線 ニ依リ波斯ト往復スル通信			

土耳其

(D) 他ノ諸通信、	一、〇〇〇		カ「チ」亞歷山得 線ニ依リテ往復ス ル露西亞埃及間ノ 通信ハ「君士坦丁」 ヲデ「サ」線ヨリ「チ エ」メ「一」經過ノ中 繼稅ヲ減シテ拾二 先士五ト爲ス
「カンヂー」島ノ稅	〇、〇七五		
附言 東方電信會社ノ「サロニッ ク」テ「チ」ト「ズ」タルダ「キル ス」君士坦丁堡間ノ海底線ヲ 臨時使用スルキハ定則稅ノ 外ニ二拾先士ヲ增收ス 東方電信會社ノ海底線陸揚 地ヲ經過スルモノ即チ「テ」 「ド」ス「ニ」サ「ロ」ニ「ッ」タルダ 「チ」ル「ス」ニ「ベ」シ「カ」君士坦丁堡 (「テ」チ「ド」ス「海」底「線」)ヘ「達」スル「土 耳其」ノ稅ハ「ニ」エ「ス」メ「ノ」亞「細 亞」境界ノ經送ニ課スル稅額 ニ均シ			
東方電信會社ノ稅	〇、六〇〇		
諸通信ノ爲ノ馬留多、土里波里間海底 線ノ稅、		十五	

歐羅巴印度間通信ノ一定稅

歐羅巴(土耳其露西亞)ヲ除ク印度間通信ノ課稅ハ左表ノ如ク一定ス

佛ヲ以テ定メタル「チ」佛ヲ以テ定メタル「チ」
ツダゴン「以西ノ稅」 ツダゴン「以東ノ稅」

A 土耳其線ヲ經ルモノ
B 露西亞線ヲ經ルモノ
C 東方電信會社ノ線ヲ經ルモノ
(露西亞及ヒ歐羅巴) (土耳其ヲ含入ス)

五五、〇〇〇〇
五五、二五〇〇

右稅額ノ内譯左ノ如シ

土耳其線

印度へノ通信	陸線ヲ經テ印度以外ノ諸國へノ通信	海線ヲ經テ印度以外ノ諸國へノ通信
計		
露西亞線		

歐羅巴	露西亞	波羅斯	波斯	印度	計
〇、五二五	一、五〇五	〇、九四〇	一、四五五	〇、五七五	五、〇〇〇
陸線ヲ經テ印度以外ノ諸國へノ通信	〇、五二五	一、五〇五	〇、九四〇	一、四五五	五、一七五
海線ヲ經テ印度以外ノ諸國へノ通信	〇、五二五	一、一八〇	〇、七〇五	一、〇九〇	四、二五〇
計					

東方電信會社ノ線路

陸線ヲ經テ印度以外ノ諸國へノ通信

東方擴張會社ノ海線ヲ經テ印度以外ノ諸國へノ通信

隣接局々間トノ差引計算歐羅巴外方法ノB號稅表ニ據リ歐羅巴各國ニ受領ス可キ稅金ハ稅表面正當ノ金額ヲ發信人ヨリ徵收シ又ハ隣局ヨリ收入スヘシ右分配計算上ノ金額ト上載ノ歐羅巴國々ニ係ル稅金額トノ間ニ生スル差(過剩又ハ不足)ハ歐州外方法ノ局ノ負擔トス

下名ノ同盟各國委員ハ聖比得堡制定條約書第十五條及十六條ニ基ツキ一千八百八十五年九月十七日伯林ニ於テ此稅表ヲ決定シ一千八百八十六年七月一日ヨリ實施スルコトヲ約定ス

日本 石井忠亮

日耳曼 ドクトル、フオン、ステファン

全 ハーク

全 シエフレル

全 フリッチ

全 ル、サージユ

南濠太利亞 チヤールレス、トッド

澳太利 ブルン子ル

全 ウラルシツツ

匈牙利 エル、ド、コオレル

白耳義 エフ、ドラルシユ

勃斯尼比耳日合維 パルマン

伯西爾 バロン、ド、カバチマ

勃爾牙利 エル、イワノフ

交趾 エル、ヂユウイウイエー

丁抹 ホンク

全	ルンド
埃及	エルチスト、アイスコッフ、フロワイエー
全	スカンダル、フアミー
西班牙	ウイ、コロミナ
佛蘭西	フリブール
全	エ、ロラン
大貌利顛	シ、エッチ、ビ、ベチー
全	エッチ、シ、フィシエル
全	ビー、ベントン
希臘	エム、ア、ヂユリユツチ

英領印度	バトマン、シヤンペイン
全	シ、エツナ、リーイルツ
以太利	ダミコー
盧森堡	モンシユナ
蒙的尼古羅	ブルン子ル
全	ウオルシツツ
那威	シ、ニイルセン
全	エフ、ブツシユ
新南威爾斯	イー、シー、クラク子ル
荷蘭及蘭領印度	ホアステット

葡萄牙

ギルヘルミノ、アウグスト、ド、パロス

羅馬尼亞

コロ子ル、バスケア

全

シ、シヤコウエスコ

露西亞

エン、ド、ベサツク

全

エ、ウツソーフ

塞内牙爾

エル、ジユウイウイエー

攝兒比亞

サン、ヨワノウイツク

暹羅

プリスダン

瑞典

デ、ノルドランドル

全

ヘルマン、ウツデンメルク

瑞西

ブレイ

多斯馬尼亞

ゼ、ヘンニツケル、ヒートン

突尼斯

エ、ロラン

土耳其

オハン、バグダリヤン

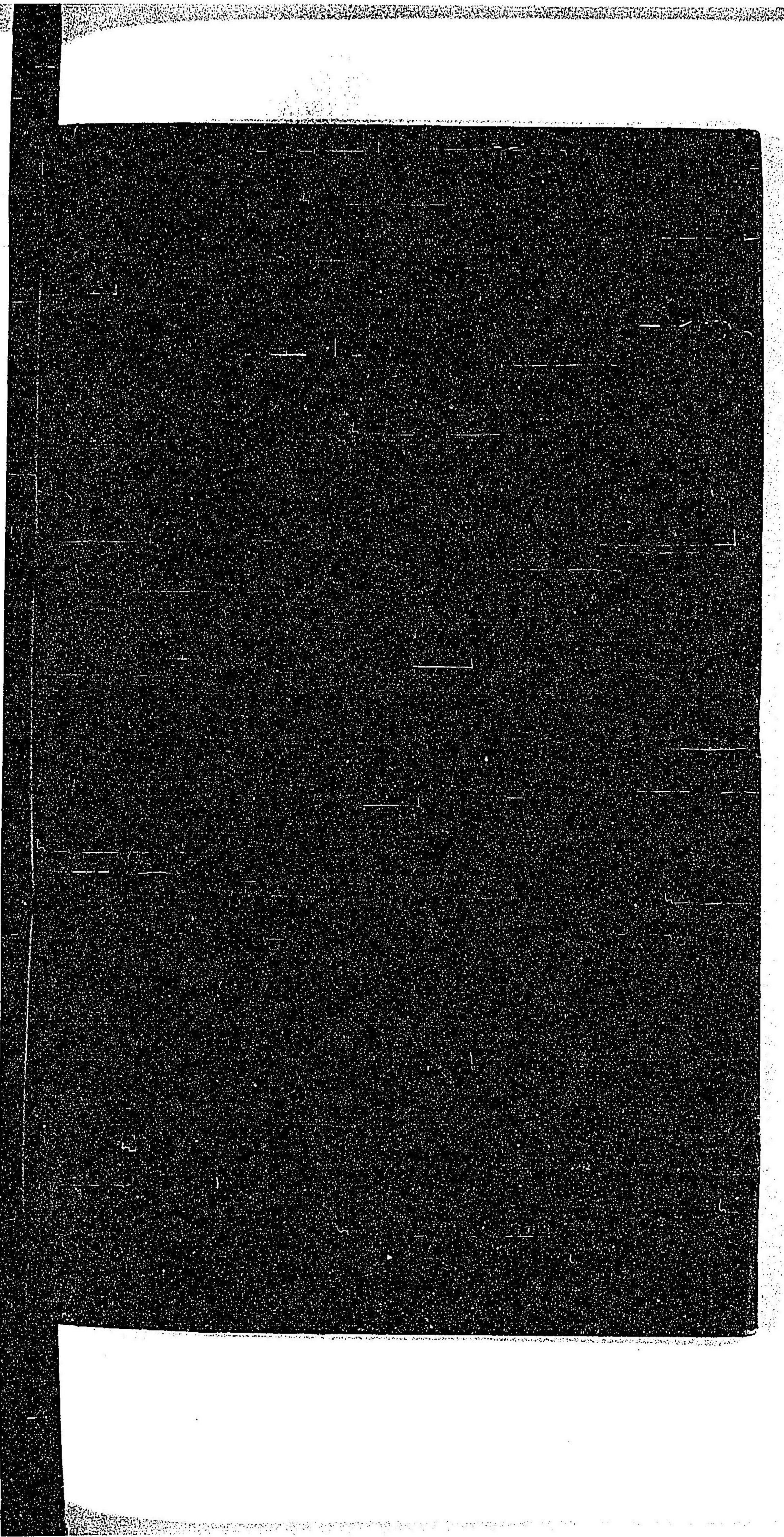
正 表 誤

六丁三行 師ハ帥
 十七丁一行 目ハ綱
 十八丁三行 每語ハ每一語
 二十六丁六行 「發信」ノ下「人」チ脱ス
 四十三丁 五 3/2 又 13/2 ノ 2、ハ 4
 四十四丁五行 FP、EP
 四十八丁十行 國ハ局
 五十二丁八行 書ハ書
 七十丁八行 「返信」ノ下「料」ハ「チ加フ」
 同 九行 「證券」ヲ「チ除ク」
 七十一丁三行 電報ハ電信
 七十七丁五行 「記名」ノ下「及名」チ脱ス
 九十八丁二行 問ハ問
 百丁五行 問ハ問
 百一丁三行 問ハ問
 百二丁六行 隻ハ隻

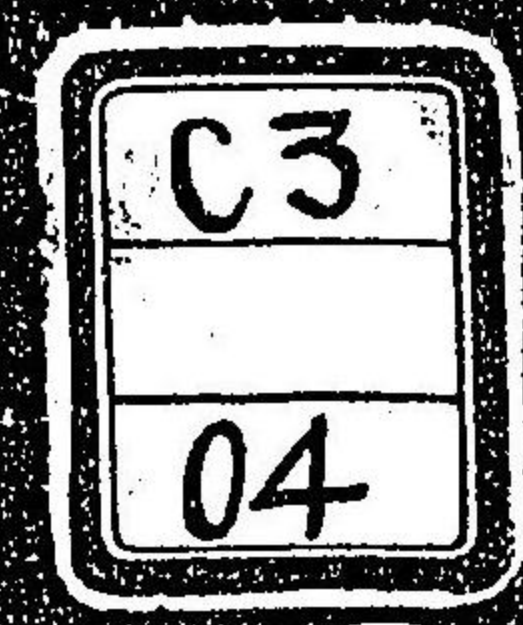
百一丁六行 第ハ此
 百二丁七行 「百分」ノ下「二」ヲ脱ス
 同 八行 「中」ハ之
 百四丁五行 報ハ信
 百五丁五行 「十」ハ衍
 B號表二丁 「〇、四五〇」ハ「二、四五〇」
 三欄一行 「首尾稅」ノ下「並」チ脱ス
 四丁五欄二行 「〇、二二〇」ハ「〇、二二五」
 六丁三欄 波斯灣稅第二ノ記事ハ
 第七 第一ノ記事ナリ
 裏
 四丁 括弧ノ記事「合」ノ上「ト」ヲ脱ス
 二十七丁四行 發ハ登
 二十八丁九行 例到ハ倒句
 四十三丁七行 RTハRP
 六十三丁九行 雇ハ屋

六十六丁八行 服、ハ報。
八十四丁八行 電報、ハ電信。
八十五丁二行 シ、ハ以。
九十九丁四行 六、ハ局。
百七丁十行 信、ハ務。
百八丁一行 但シ、ハ但諸。
百十七丁三行 利、ハ列。
B 號稅表十丁 洲、ハ馬。
二欄五行 卒、ハ率。
同五欄一行 信、通、ハ通信。
十四丁二欄 利、ハ列。
六行 利、ハ列。
十七丁七行 利、ハ列。

15
金
20



万国電信條約書



039427-000-3

C3-04

万国電信條約書

通信省電信局

[M21?]

BCD-0260

